

# 共に生きる心で 断酒会との四十年

## 断酒会との出会い

一九六一年門司区初の精神科病院を開設した時から私のアルコール依存症（以下ア症）を開放処遇で治療するにあたっての孤軍奮闘があった。

嗜癪脱憤<sup>しへきだつぱん</sup>ゼロの治療敗北七年が迫った時、十回入院のT氏の真の回復希求により、一九六八年に北九州断酒友の会の病院支部が誕生した。その

出産と育成の御恩を末永豊紀会長に頂いた。「酒の魔力と言うけれど真の魔力は飲む心」の断酒標語も共々に。

病院支部の初代支部長高田雅男氏が確立した断酒会の自治運営は民主主義に徹したもので、冊子「断酒松ヶ江」も断酒志向を育成するピアカウンセリングの治療効果があり、月刊継続は心身合併症の医療と両輪関係だった。

## 断酒会支部二十周年記念誌「断酒会で見えたこと聞いたこと」

病院支部の発起人の浦山惣三郎氏は関門支部を創立。更に末永氏を継代し、夫人と共に病院支部の育成に

日夜協力され、他の病院支部に比類なき週二回の夜間例会開催の支援で、

私のア症治療の理想である入院者と断酒の生証人の交流体験プログラムを充実させた。更に断酒会の夫婦学習による治療効果のアップと断酒生活の継続例や復縁の例も輩出した。

三十周年の記念誌「断酒松ヶ江四百号」特集には全国からのメッセージも花を添えた。高田氏を継代した伊藤博明支部長の編集とパソコン作業の労作で、単身生活者の断酒会における「禍転じて福と為す」の実践と司会は感動的。

## 九州アルコール関連問題学会発表

四十年間の断酒会方式である嗜癪脱憤の集団精神療法を組み込んだア症回復プログラム（ARP）は、私のア症治療専門医としての迷わぬ信念と幸運な精神科医に影響した。

昨年の学会でア症からの回復は可能断酒会につながる動機付けを発表の骨子として例証した（表1）。



医療法人松和会  
門司松ヶ江病院  
名誉院長 山浦賢治

### 略歴

- 1954 久留米医科大学卒業
- 1958 九州大学精神神経科入局
- 1961 門司松ヶ江病院開設・院長
- 1968 北九州断酒友の会支部結成
- 1980 断酒志向の精神力動について（九州精神神経学会）
- 1982 ア症の社会復帰（日本プライマリー・ケア学会）
- 1999～2007 九州アルコール関連問題学会発表
- 2002 日本アルコール関連問題学会評議員
- 2003 門司メンタルクリニック開設  
ア症専門外来（火曜）

底つき体験はア症の回復に不可欠な断酒会との出会いと学習継続の機縁  
任意・短期の入院は慢性・進行性致死性・家族性を特徴とする心身症であるとの理解と是認を、本人と家族に明確にするのに充分な治療条件

同一患者A氏の五十回入院（図1）の断酒会プラス効果。共依存、強制、長期入院のマイナスを例証  
任意入院の断酒会併用B氏（図2・図3）。スリッパ立直りも、抗酒剤不要の例  
妻の協力のあり方も明確化（表2）

♥北九州断酒友の会の顧問としての長年の厚誼と納得の証人効果役に深謝

表1 アルコール依存症からの回復は可能 断酒につながる動機付け

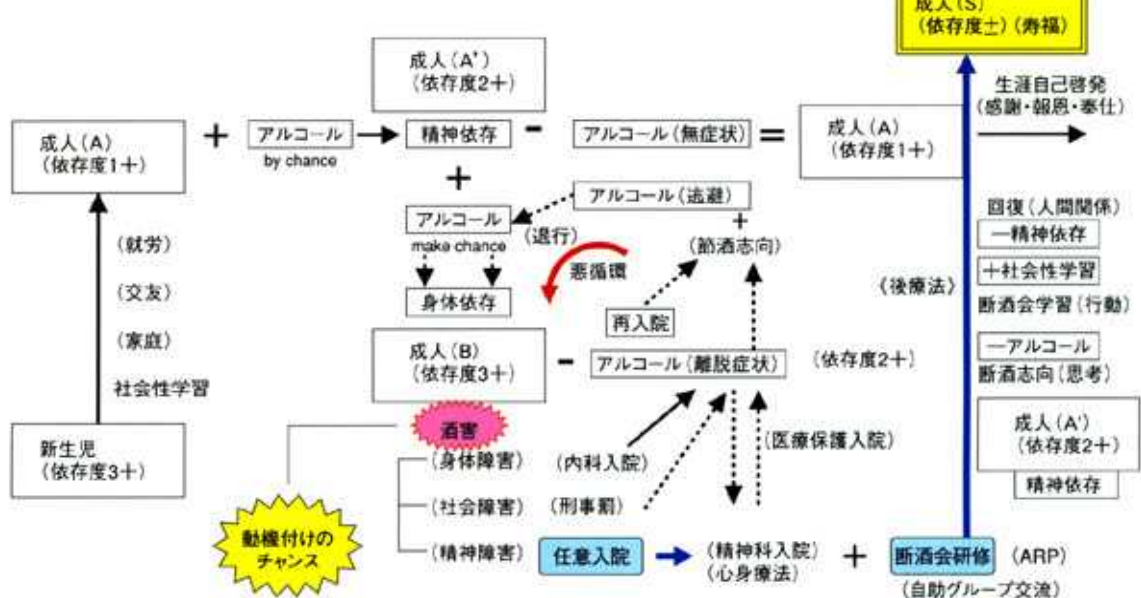


表2 妻の協力

+ 3	夫について断酒会の世話
+ 2	夫と共に断酒会出席
+ 1	疾病を理解して断酒会出席（時々）
± 0	夫の入院時のみ断酒会出席
- 1	共依存・借金返済 仲人や親族に説諭を頼む
- 2	抗酒剤を服用させる 離別をほのめかす
- 3	疾病を理解せず、離別する

